

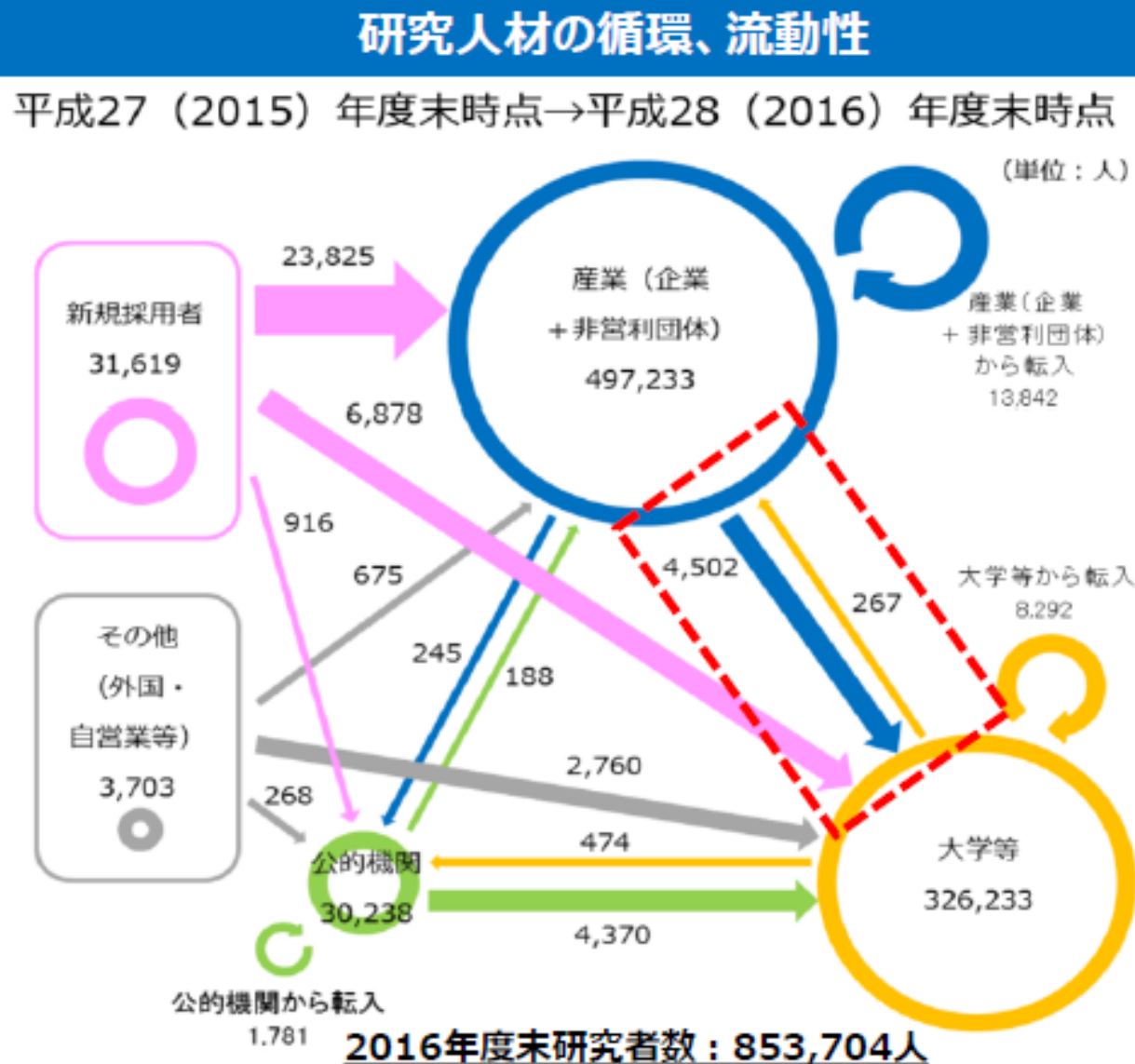
人材移動可視化ツール ～概要～

* 日本における研究者の機関間移動の傾向はどうなっているか？

* 第6期科学技術・イノベーション基本計画では、人材の流動性を高めることなどにより Society5.0時代の価値創造を実現する、とされている。

* これまで人材流動性データは総務省科学技術研究調査による機関に対するアンケート調査の結果を用いた分析（右図）しか存在していなかったが、流動性をどのように高める必要があるか等のより詳細な分析を実施する上では情報が十分ではない。

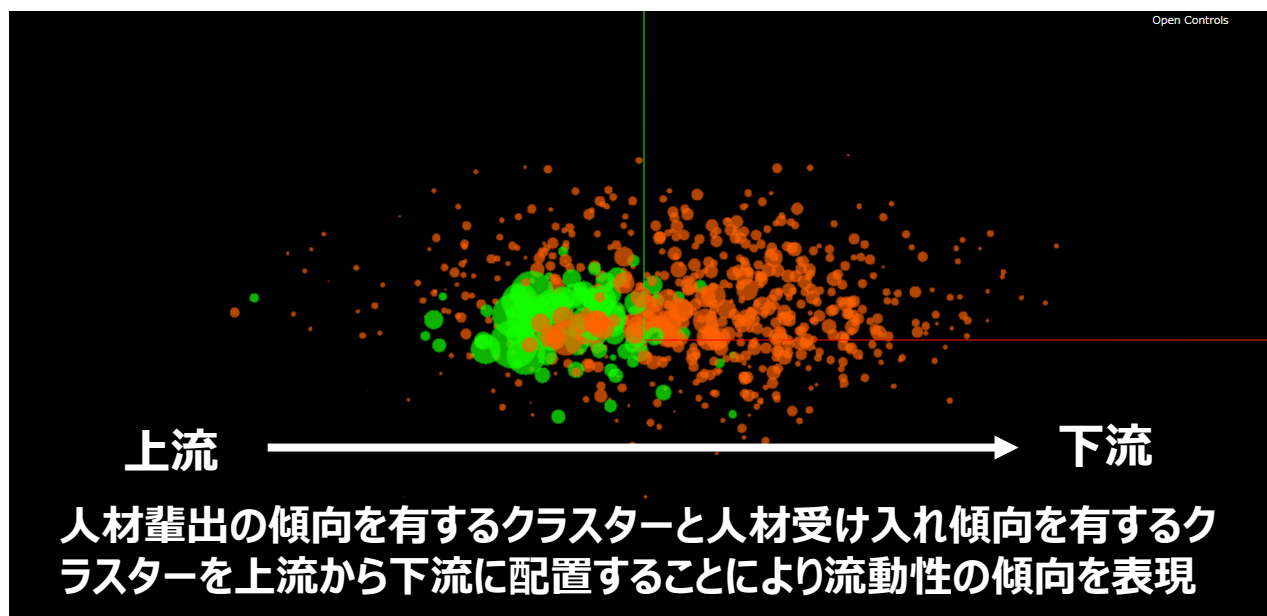
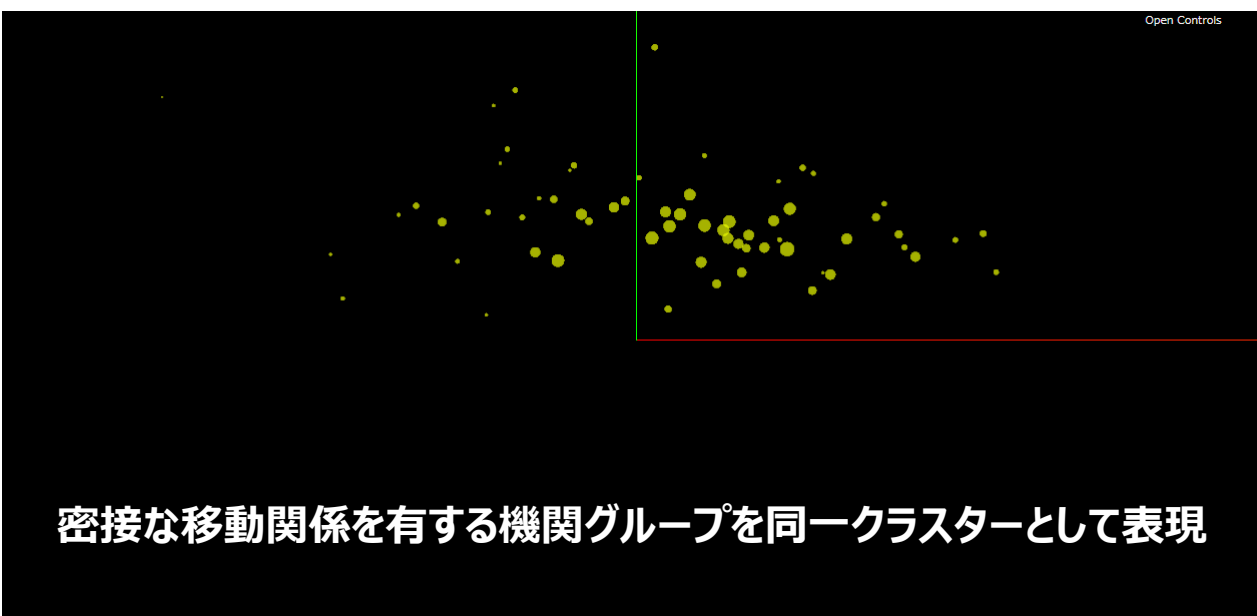
* こうした中、e-Radに捕捉されている研究者の人事に係る更新履歴データを活用することにより、個々の研究者ごとの移動データを用いた詳細分析を実施することが可能となる。



（出典）総務省科学技術研究調査を基に経済産業省作成。

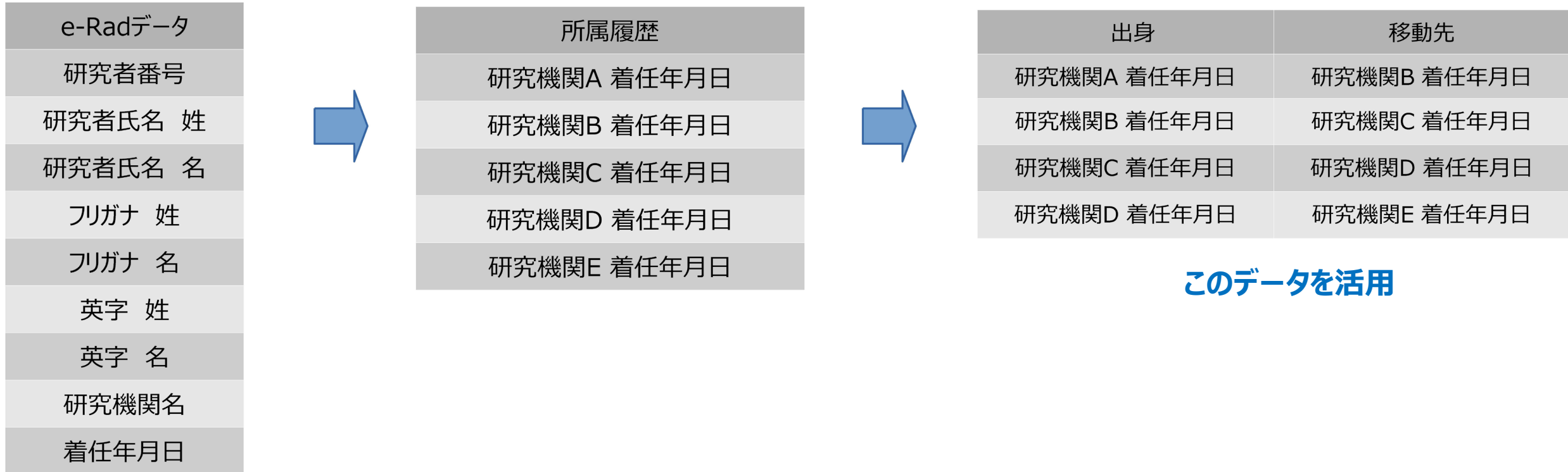
* 日本の研究者の機関間移動はどうなっているか？

* 研究者の機関間移動の傾向を分析するために、個々の研究者の移動情報を用い、研究機関ごとの研究者の移動の多さや機関種別による研究者の流れ、密接な人材移動の関係を有する機関グループなどの状況を3次元で表示する可視化ツールを作成した。



* どんなデータを使っているか？

* e-Radの人事データに掲載（2020年10月現在）されている約100万件の情報から移動にかかる約17万件の移動データを抽出し、活用。



このデータを活用

e-Radから取得できない情報はカウントされていない。例えば、

- e-Rad研究者IDを有しない民間企業研究者の移動
- 海外の研究機関への移動

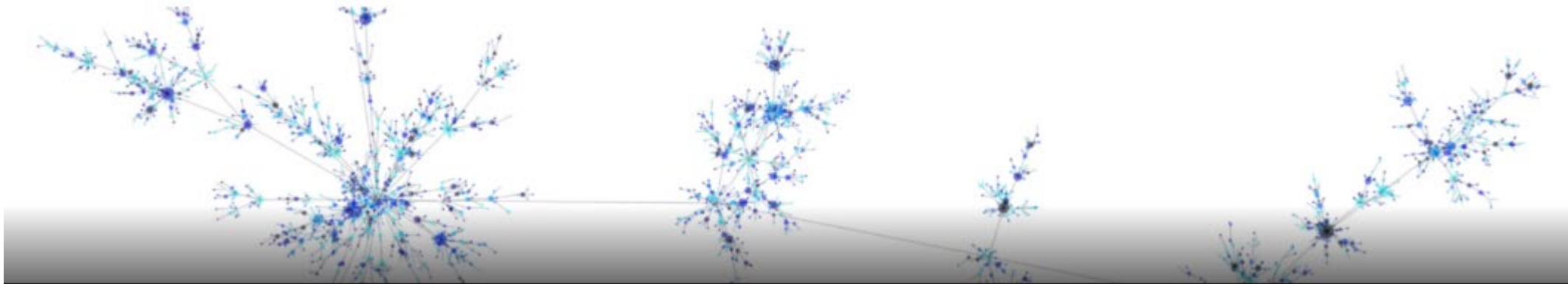
* 人材が移動するとは？



人材が移動すると、人脉も移転される。



組織Aと組織Bの間に社会的なつながりが発生し、組織間ネットワークができる。

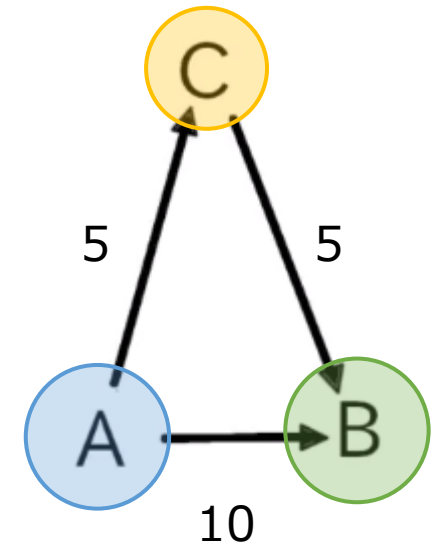


複数の移動をマクロで集計・把握することにより、マクロな移動傾向を捉えることが可能となる。

* 研究者の他組織への移動はどのように表示されるのか？

- ABC三つの機関間で右表の人材移動がある場合
 - ✓ ABは最も関係が深いので近く
 - ✓ AC、BCは疎遠
 - ✓ Aは他の機関に人材を出しているので左に
 - ✓ Bは他の機関から人材を受け入れており右に
 - ✓ Cは中継地点なのでABの間に
- これらの条件を満たす空間配置は右図のようになります

		移動後		
		A	B	C
移動前	A		10	5
	B	0		0
	C	0	5	



* 研究者が密接に移動し合っている組織（移動クラスター）とはどのようなものか？

* A～Fの6機関で説明します。

* 移動の多いA～CとD～Fはそれぞれ別の移動クラスターとなります。

* 2つのクラスター間は移動が希薄であるため距離も遠く配置されます。

